

## 1. 実践の概要

高校1年生の公共(2単位)5クラスで実践を行った。生徒は中学公民の用語などもよく知っているが、意味までは理解できていない場合が多く、残念に感じている。教科書に書いてあることだけでなく、広く世の中に目を向け、学びの幅を広げて欲しいと考え、今年度は、なるべく毎回の授業で新聞記事に触れ、授業と日常生活のつながりを感じてもらえるような取組みを行った。

## 2. 実践内容

### (1) 実践の流れ

#### ①社説読み比べ

憲法記念日の社説を比較させた。自分が共感できる部分、できない部分に線を引き、感想を述べる、という簡単なものだが、意外と反響があった。生徒にしてみると、同じ憲法に対してこれほど違う見解になるとは!ということのようだ。今年度は別テーマでもう一度読み比べを実施した。



#### ②新聞コンクール応募

「いっしょに読もう!新聞コンクール」への応募を夏休みの課題とした。1学期の終わりに、簡単に書き方の説明をし、Teamsでも周知したので提出状況は悪くなかった。

#### ③新聞を知る

夏休み明けの最初の授業で、実際に新聞を使う授業をした。新聞を購読していない家庭が半数程度はあるだろうと予測していたので、単純に新聞をめくり、いろいろな記事に触れさせることを狙いとした。新聞のページ数、情報量、広告の量などを確認させたり、株価や首相の動静、新聞の料金などを探させたり、新聞の情報の幅広さに気付けるようにした。

#### ④記事を選ぶ・つなぐワークシート

10月から2か月間、6紙を購読させていただいた。この間、毎朝教室に違う新聞を届けて生徒が手に取りやすいようにし、見出しだけでもチェックするよう促した。

さらに課題として、おすすめの記事を選ぶワークシート(10月末提出)、3つの記事を選び、それを利用して自分の意見を述べるワークシート(11月下旬提出)に取組ませた。なるべく多くの記事に触れさせることが目的なので、異なる新聞社、異なる日付の記事を選ぶという制約をつけた。

### (2) 活動のねらい

#### ①社説読み比べ

新聞社ごとに考え方の違いがあることを理解させること、自分とは異なる考え方を知る

ことで、新しい視点をもつきっかけにしてほしいと考えた。

## ②考えを深める

一つの記事をじっくり読み、さらに他の人の見方や考え方にも触れ、一人で考えをめぐらす機会とした。

## ③新聞を知る

生徒が情報を得る手段は圧倒的に SNS が多いようであるが、新聞というメディアの特徴を知り、情報源の一つとなればと期待した。

## ④様々な記事を読む

各回の課題でおすすめ記事、3つの記事を選ばせたのは、様々な内容の記事に目を通し、それをもとに自分の考えを深めさせる機会を作るためである。普段の授業ではなかなかできない生徒の主体的取組みを促した。

24 公共課題「新聞を読もう！」課題その2

新聞で意見を伝えよう！

1 テーマまたはキーワードが共通で、日付の異なる記事を3つ選び、以下に記事の概要も記入してください。

2 あなたが選んだ記事は、どのようなところに「共通性」がありますか？

3 3つの記事で、あなたが伝えたいこととはどのようなことですか？

1 選んだ記事

記事1 ( )新聞 月 ( ) 日( ) 面 <概要>	記事2 ( )新聞 月 ( ) 日( ) 面 <概要>	記事3 ( )新聞 月 ( ) 日( ) 面 <概要>
-----------------------------------	-----------------------------------	-----------------------------------

2 「共通性」

3 私が伝えたいこと

1年( )組 №( ) 名前( )

## 3 成果と課題

### (1) 成果

授業で盛り上がったのはやはり「見出し読

み比べ」だった。衆院選やアメリカ大統領選の結果は写真の使われ方など、生徒にもわかりやすい違いがあり、生徒の関心も高まった。

ワークシート課題では、多くの記事に目を通さねばならない手間のかかる作業だったにもかかわらず、意外な共通性を見出して自分の考えを述べる生徒もいた。実際に新聞を手にとれる環境さえあれば、生徒にとっても重要な情報源になり得ると再認識した。

これまでの取組みにつながる「新聞リテラシー講座」開講の機会に恵まれた。朝日新聞の方から実例も踏まえた情報の受け止め方、学生生活への活用法なども伺うことができた。情報への接し方を改めて考える機会となったようだ。

### (2) 課題

日常的に記事に触れながら授業に取り組んで感じて感じることは、生徒は教材として差し出された新聞記事にはそれなりに興味を示すものの、自分から積極的に新聞を手にとることはほとんどないということである。学校の図書室に行けば6紙全てが読める環境は整っているが、その図書室は生徒の動線上にない。

となると、考えられるのは生徒にとってなじみのある方法での新聞活用である。私自身、紙の新聞、紙の本が大事だと思ってきたが、これだけデジタル版が浸透してきている昨今、昔に戻ることはなさそうだ。実際にデジタル版の新聞を利用してみると、切り抜き保存や検索など便利な機能も多いし、有料版として新たな情報やサービスの提供もある。今後は、このようなメリットを生かした授業も工夫していきたいと考えている。